

# 日本語の特質を考える

## －古文を英訳する作業を通して－

国語科 島山 俊

### 1. はじめに

平成 21 年 3 月告示の『高等学校学習指導要領』<sup>1)</sup> では国語科の選択科目「古典 A」の「2 内容」には

2(1) エ 伝統的な言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探究して、我が国の伝統と文化について理解を深めること。

とある。さらに、「3 内容の取り扱い」には

3(2) 古典を読む楽しさを味わったり、伝統的な言語文化に触れることの意義を理解したりすることを重視し、古典などへの関心を高めるようにする。

3(3) ウ 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。

(イ) 人間、社会、自然などに対する様々な時代の人々のものの見方、感じ方、考え方について理解を深めるのに役立つこと。

(オ) 現代の国語について考えたり、言語感覚を豊かにしたりするのに役立つこと。

(カ) 中国など外国の文化との関係について理解を深めるのに役立つこと。

と記されている。

また、『高等学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)』<sup>2)</sup> では、国語科の必修科目である「言語文化」の「1 目標」には

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

とあり、「2 内容」には

[知識及び技能]

(2) ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。

「3 内容の取扱い」には

(4) エ (ク) 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を高めるのに役立つこと。

とある。

古典学習において現代に連なるものであることが大切であり、国際社会に生きる上での糧になるものとして古典学習を行わなければならないのである。そして、そこでは「外国の文化」との違いを意識することが必要となってくる。そして、「中国など外国の文化」と例示されていた部分が、平成 29 年告示の学習指導要領では単に「外

国の文化」となっていることから、様々な国の文化や言語への理解が国語教育の中でも求められていると考えられる。このように今後は「国語」といえども、国際的な視野で授業を組み立てることがますます必要になるであろうと考え、今回の授業実践を行った。

## 2. 学校設定科目「教養基礎国語Ⅱ」(1単位)

本校には学校設定科目として「教養基礎国語Ⅰ」「教養基礎国語Ⅱ」がある。どちらも大学等の外部の先生の授業をひとつの柱とし、それに国語科の基礎を成す知識を幅広く身に付けることを加えて狙いとする科目となっている。このような科目において、「言語文化」につながるような授業実践を行うことによって、「言語文化」への円滑な移行になればよいと考えている。そこで、本稿では「教養基礎国語Ⅱ」で2018年度に行った取り組みについて報告するが、一部2017年度の「古典B」の授業で試行した結果も併せて取り込んでいる。

2018年度の「教養基礎国語Ⅱ」は外部の先生の授業、漢文句法、古文単語、文学史を内容として扱ったが、学期に1度程度、国語全般に関わる課題を設定した。今回は三学期に行った「日本語の特質を考える」ことを目標とする取り組みの詳細を解説する。「授業のねらい」は古文を主教材として用いるものの、英語や漢文を鏡として日本語を映し出すことで「日本語とはどのような言語かを考察すること」とした。全2時間で、4～5人を1グループとしてグループ活動形式で授業を行った。以下、単元の概要と授業実践を報告する。

## 3. 単元の概要

「古文を英訳する」という試みを行うことによって、「古文」と「英語」の双方に対する理解を深めるとともに、その中から「日本語の特質を考える」ことができるのではないかと考えて、この授業を構想した。

### (1) 単元の目標

- ① 複数の言語に触れることにより、言語感覚を豊かにし、言語に対する関心を高める。 《関心・意欲・態度》
- ② 古文を的確に読解し、理解しやすい現代語に直す。 《読む能力》
- ③ 日本語の特質について理解する。 《知識・理解》

### (2) 単元の評価規準

《関心・意欲・態度》

- ① 複数の言語を積極的に理解しようと努め、言語の特質について考えようとしている。
- ② 協働して議論し、グループ内の言語観をまとめようとしている。

《読む能力》

- ① 古文の内容を的確に理解している。

② 読み取った内容を英語に直すことができる。

《知識・理解》

① 古文単語や古典文法に則って、古文を読解できる。

② 言語の特質を理解し、複数の言語の特質を比較することができる。

評価に関しては平成 21 年版の「学習指導要領」に準拠して構成しているが、もちろん平成 29 年版も同じように考えることができる。

(3) 単元の指導計画（全 2 時間）

第 1 時 ・『徒然草』序段の英文を読み、現代日本語訳を行う。

・複数の言語の比較から、それぞれの言語の特質について話し合う。

第 2 時 ・『徒然草』の 3 つの章段を英訳する。

・模範英文をもとに、作成した英文を自己評価する。

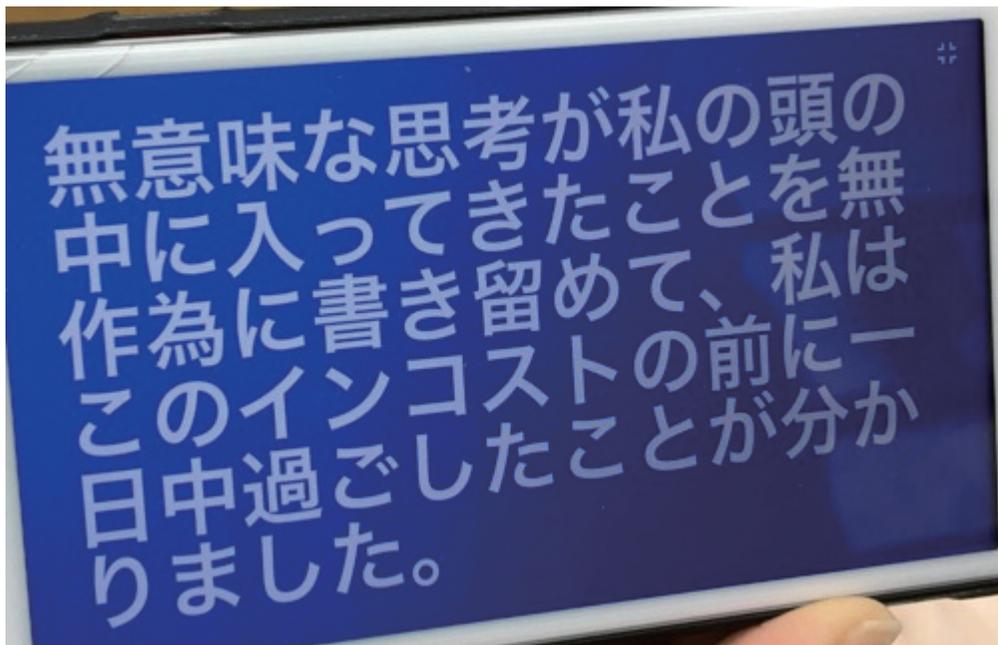
・自己評価する中から、日本語の特質について考察を深める。

#### 4. 授業実践

##### 4.1. 1 時限めー第 1 の課題ー

資料 1 のプリントを配布し、英文を和訳させた。辞書やアプリ等自由に使用してよいとした。

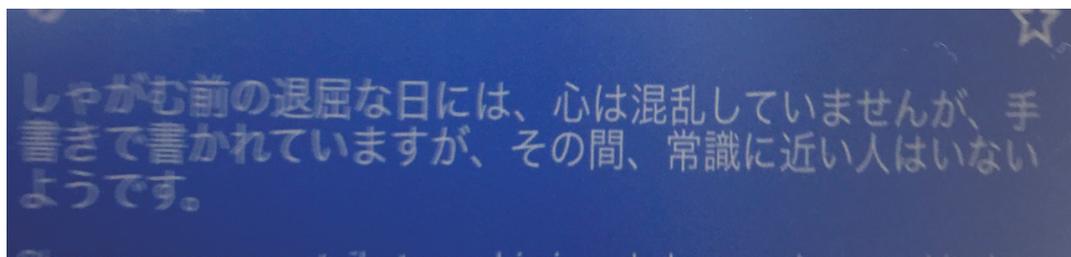
2017 年度に試行した際に、あるグループが無料翻訳ソフトを試してみたいと提案してきたので、やってみたところ次のような日本語訳が提示された。



「無意味な思考が私の頭の中に入ってきたことを無作為に書き留めて、私はこのインコストの前に一日中過ごしたことが分かりました。」

ひとつひとつの単語と日本語とはかなりの確に対応しているのだが、「インコスト」という意味の取れない単語が含まれている。英文を自動で読み取らせているのだが、その部分が正確に読み取られていなかったか、対応する英単語がないためカタカナでの対応になったものと考えられる。ところが、実はこの「inkstone」は鍵になる単語で「ink」と「stone」の合成語であるところから想像を働かせて、「硯」が思い浮かぶともとの文が何であるか一気に分かることがある。中学校の段階で『徒然草』序段は暗唱していることも多く、何かのきっかけで結びつくようである。

ちなみに2018年度は台湾で出版された『徒然草』（以下、「台湾版」と表記）<sup>3)</sup>も併せてプリントに載せたため、それを自動翻訳したグループもあったので、参考までに示しておく。



「しゃがむ前の退屈な日には、心は混乱していませんが、手書きで書かれています、その間、常識に近い人はいないようです。」

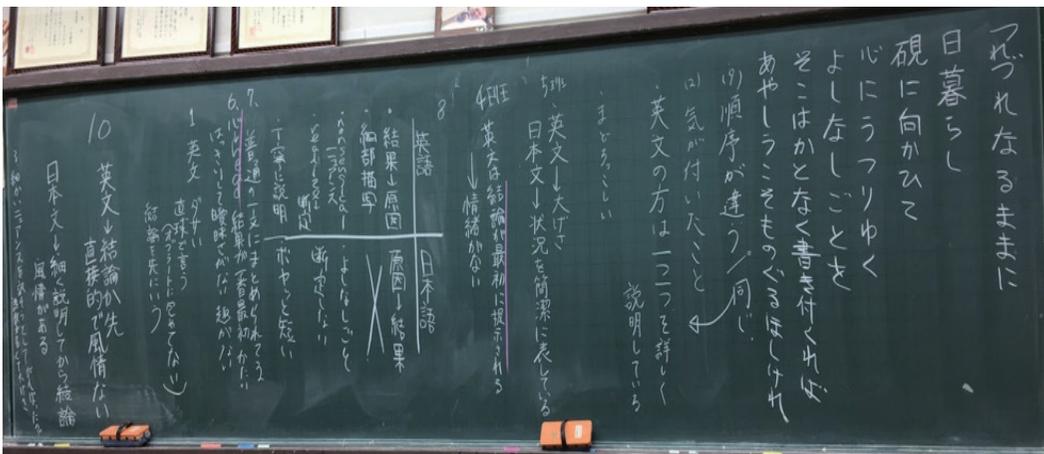
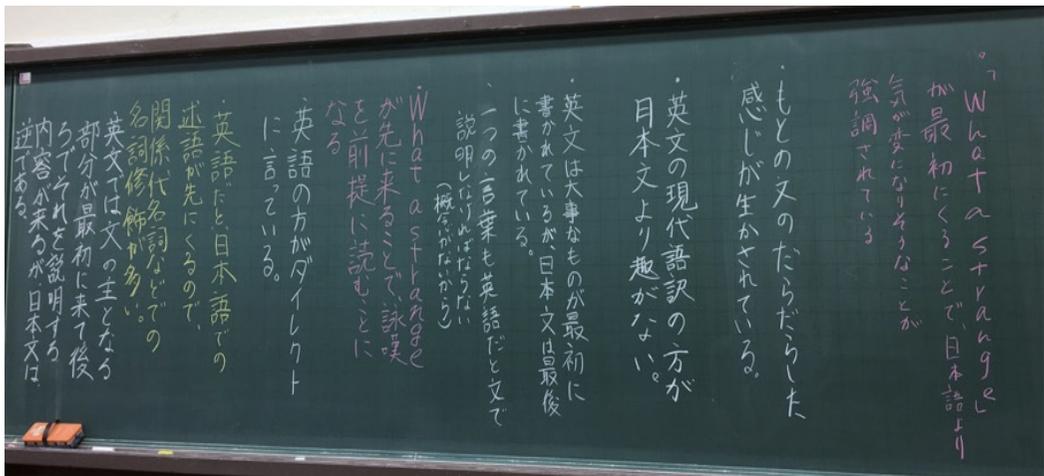
日本語として読むには耐えない和訳で、英語からの和訳のほうが、原文にやや近いと考えられる。使用頻度の問題もあって差が生じているのだろうが、今後はこのような無料の自動翻訳ソフトの精度もどの言語間であっても上がってくることが考えられる。そのときは、学校教育のあり方も大きく変わらなければならないであろう。

ところで、古文で『徒然草』を学習する前に、この序段の英文を提示して想像させるプリント学習は以前にも様々な高校で行ったことがあるが、多くは10分ほど経つとこの英文が『徒然草』序段であることに気づく生徒が現れ、クラス全体に波及し、ざわつくようになる。その頃合いを見計らって、序段本文を板書する。しかし、課題は現代語訳することであるから、これが『徒然草』序段であると分かっても、課題が達成されるわけではない。先ほども述べたように暗誦している生徒は多いものの、いざ現代語訳するとなると、意外にできず、特に「あやしうこそものぐるほしけれ」などは適当な理解で終わっているように思われる。それもあって、資料2の現代語訳<sup>4)</sup>を配布する。ただし、2018年度はこの現代語訳に台湾版『徒然草』序段も参考として付した。生徒にも説明したが、どうして台湾版かというと、台湾では日本の旧字体に近い繁体字を用いており、中国大陸で用いられている簡体字に比べ、日本人にとっては読みやすいからである。さらに、日本の旧字体の知識も日本語の移り変わりを学ぶうえでは、意義があることとなる。資料1、資料2を用いることで、「日本語」「英語」「漢文」の言葉の特徴について比較して考えることができるので、資料2の課題はそのよ

うな構成にしている。実は、たまたま台湾で出版されている『徒然草』が手に入ったことにより、2018年度の授業で初めて「漢文」を比較の対象に加えたが、それ以前は日本語と英語との比較だけを行っていた。台湾版との比較はあまり深めることはできなかったが、2言語より3言語のほうが言語の特質について考えられることが増えたように見受けられた。グループ学習をするといろいろな意見が交錯し、自分が考えてもみなかった意見が出ることもある。しかし、それが契機となり、考えてもみなかった他者の意見に対して、自分の意見が深まることもある。そのため、このような学習はグループ活動になじむものであると考えられる。

それでは、日本語と英語との比較で実際に生徒から出た意見の要点をいくつかにまとめておく（2017年度の2クラスの板書を付記）。

- ① 英語は最初に結論がある。
- ② 英語の方が、客観性があるように感じられる。
- ③ 「I」が多用されている。
- ④ 「心」が「head」とされている。



いずれも英語と日本語との関係を考えるうえで、大切なことである。①はそれぞれの言語が大切なことをどこに置くのかに関係すると考えられる。それが②と関わる可能性もある。③は日本語においては主語がなくても成り立ちやすいという日本語の特質に関わる。④は英語の自動翻訳とも関わるのだが、それぞれの言語を用いる人々の言語観や人間観の違いによっても考えられる。このようにこの課題だけでもおのおの言語の特質を生徒自身が導き出すことができるのである。

2018年度三つの言葉を比べたうえで、それぞれの言語にどのような特徴があるかを指摘させ、実はこの三つは言語の典型的な三つのあり方に対応しているという説明を簡単にではあるが行った。

日本語＝膠着語

英語＝屈折語

中国語＝孤立語

主に「語順」と「語の変化」の二点から三つの言語は系統が異なることを説明したのである。

#### 4.2. 2 限め—第2の課題—

第二の課題は『徒然草』の三つの章段を取り上げて、それらを英語に直すことが中心の課題となる（資料3）。しかし、それに先立って英訳する章段の台湾版を示して、内容を想像させてみた。これは繁体字とはいえ漢字からある程度の意味をつかむことができ、それが英訳の際に参考になると考えたからである。さらに、「妙観」という語があるが、これが人の名前であり、どのような人物かがわからないと章段の内容が理解しにくいからである。台湾版には「妙観」に注が施されており、その注の内容は台湾版を読んでも生徒に見当がつくような注となっているので、英訳の際の参考になると考えられる。そのような段階を踏んだうえで、生徒に英訳を試みさせた。生徒はもちろん英語の授業の中で英作文は行っている。しかし、そのもととなる日本語は整えられた日本語である。ところが、今回のもととなる文は古文である。「整えられた」とは言えないものである。そこでまず古文を現代語訳する段階が必要になる。今回、選んだ章段は比較的短いものとした。分量の負担を減らしたい意図もあったが、逆に短いからこそ意味がとりにくい部分のあることを前提としている。つまり、古文を現代語訳する段階で逐語訳を超えて、衆知を集めて内容を理解したうえで、平易な現代語訳を考えることが求められるのである。それは授業後の生徒のアンケートからもうかがわれる（資料8参照）。そして、それをさらに英文とする作業がある。グループの間を回っていると第1の課題で得られた「英文は大切なことが初めに来ること」などをうまくいかしているグループがあることがわかる。また、この第2の課題での、二段階の作業は古文を得意とする生徒と英作文を得意とする生徒が必ずしも一致していないことがあり、図らずも協働的作業となっている、ならざるをえない側面があることもわかった。この段階はグループにより作業時間の差が大きいので、作業の終了

したグループからモデル英文<sup>5)</sup>の入った次のプリント(資料4)を取りに来るように指示する。

グループで作成した英文とモデル英文を比較し、それを評価するのが次の段階である。評価は単純な5段階評価と記述を組み合わせている。記述の部分は5段階評価の根拠となることを書くことになる。これもグループ内で協議して評価することになる。個人の評価がわかれて違う評価を併記するグループもあった。そのようなこともふくめて協働作業であり、グループで行う意義を見出せると考える。

## 5. 評価

評価は授業の特質を鑑み、自己評価を中心に行った。第1の課題、第2の課題が終わったところで、この授業全体に対する個人の評価を行った(資料5)。これも5段階の評価と自由記述を組み合わせた評価とした。5段階評価では特に②と⑤の項目に着目した(資料6)。②は①と、⑤は④とつながっており、従来の授業と今回の授業との差を問う構成になっている。各項目の平均(「人数×各段階」の平均)では、いずれも①より②、④より⑤が高い数値となっている。特に、2018年度の②は平均が4点を超え、全体でも高い数値となっている。また、2018年度の③も高い数値を示しているが、②、③から2018年度に三つの言葉を比べたことが、前年度以上の意識の向上につながっているのではないかと考えられる。両年度とも全体を通して⑨が最も高い数値である。授業の形式がグループ学習形式であるため、自ずと協力を意識して活動していることが理由であろう。

自由記述からも少し抜き出しておく。

まず、資料2の2)の記述欄より

- ・「あやうこそものぐるほしけれ」の訳が、英語だと「不思議なことに頭がおかしくなった気がする」で、台湾だと「ものに憑かれた」と言っていて、違いがある。訳するのが難しそう。「enter my head」という表現がおもしろい。(2018年度)
- ・翻訳はそれぞれの言語に合うイメージでされているので、直訳とは限らない。英文では主語が添えられている。文化的関係を考える。(2017年度)

次に、資料5の自由記述欄より

- ・日本語だと、当たり前前に読みすごしてしまうあいまいな表現(「うるさし」など)とかを、英訳してみることでいかに一つ一つの語の意味を吟味することを怠ってきたかを痛感した。言語を訳すことで、自国語の「わかったつもり」の単語が浮き彫りになった気がする。(2018年度)
- ・古文→英文も、古文→現代語訳→英訳をしなければいけなかったのも、とても大変で、あたまフル回転だったのですが、いつもより集中して取り組むことができ、とても面白かったです。また機会があれば英訳をやりたいです。(2018年度)
- ・古文を現代語訳してから英語に訳すのは、しっかり意味を理解していないとできないことだったので、普段よりは理解が深まったような気がした。又、英語

と日本語では文のニュアンスが違うので、『徒然草』のあの繊細な感じは英語では出せないのかな、と思った。日本語であるからこそ伝わるこのニュアンスはとても興味深い。これからはそういうのを感じ取りたいと思った。(2017年度)

- 英文和訳は逐語訳することが多く、文章全体で何を伝えたいのか(主題)を日本語で効果的に表すためには、単語の順番や助詞の選択をよく吟味しなければならないと感じ、はっとしました。言語理解が文化の理解が必要あることも感じました。(2017年度)

2017年度は「日本語が膠着語である」等の言語学的な説明は行っていないが、図らずも日本語の特質である助詞に生徒自身が言及している。

資料3、4については生徒が作成したプリントをそのまま掲載した(資料7)。生徒がこのプリントからどのようなことを学んでいるのかを参考までに知っていただけるようにと考えている。このプリントもそうであるが、実は年度、クラスによってプリントの形式が異なっているものがある。しかし、記述させる内容は、台湾版が加わった違いはあるもののほとんど変わらない。また、資料5に生徒が記入したのもサンプルとして二例ほど掲載しておく(資料8)。生徒作成のプリントを見ることで、生徒が作業しながら、言語の相違に関心を持ち、自ずと日本語の特質に目が向いていることが分かるからである。

## 6. 今後の課題

年度内でもクラスによって、やりにくい部分を変更するなどし、少しずつ課題が整備されてきた。しかし、まだまだ改善の余地がある。今後は同様の試みを他校でも実践していただき、異なった視点からの改善の提案等も受けながら、よりよいものにしていきたい。そのような時にこの課題はいくつかの段階から成り立っているが、部分的に切り取ることもできると考えている。

### 課題の段階

- ① 『徒然草』序段英訳を読み、内容を把握する。
- ② 日本語と英語との言語の違いを考察する(2018年度は台湾版も比較した)。
- ③ 『徒然草』のいくつかの章段を英訳する。
- ④ 作成した英文を自己評価する。
- ⑤ 課題全体を自己評価する。

始めは①、②だけで授業を行っており、次に①～⑤の現在の形となったが、2018年度は日英の比較に加えて台湾版が加わった。①、②だけで課題としても、台湾版の部分を省いても、どちらも課題として成り立つ。また、『徒然草』の英訳も章段の数を減らしたり、長くてももう少し具体的で英訳しやすい章段を選んだりすることもできる。今回の論考をきっかけに同じような試みがなされることが今後の課題であり、希望である。

さらに、日本語、英語、台湾版、各語の特質を考える部分は学校の実情によっては、

言語学の知識をしっかりと学ぶきっかけにすることもできると考える。

そして、教科を越えて英語の授業と組み合わせることもできるのではないかと考えている。この授業実践でも古文単語「あやし」と「strange」などは語義がかなり似ており、現代語を介さないで理解できるのではないかと感じる部分もあった。また、古文、現代日本語、英語と行き来することで理解が深まる部分もあり、それは生徒の感想にも率直にそのように書いてあるものが見受けられることから分かる。英語の面からこの実践を深めるとさらに異なった定着の仕方ができるのではないだろうか。

また、本校では高校三年次に総合学習に代わり「探究Ⅱ」という授業を設定している。これは高校二年次に個人やグループで行う課題解決型授業である「探究Ⅰ」の成果をクラス毎に英字新聞として作成するというものである<sup>6)</sup>。その中で「英語の記事では重要なことは冒頭に置く」ことが記事作成のポイントとして挙げられる。すると、「そういえば、英語は大切なことが初めにくるよね。」などという声が聞こえてくることがある。『徒然草』で行った実践が思い浮かぶようである。このように様々な活動と結び付きながら、意識はしなくても日本語とはどのような言語かをどこかで考えていくことにつながっているのである。

## 注

- 1) 文部科学省『高等学校学習指導要領 平成 21 年 3 月 告示』(2009 年)
- 2) 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示) 平成 30 年 3 月 告示』(2017 年)
- 3) 吉田兼好著 文東譯『徒然草 つれづれぐさ』(時報出版 2016 年)
- 4) 今泉忠義訳注『改訂 徒然草』(角川ソフィア文庫 2008 年)
- 5) Donald Keene 訳『ESSAYS in IDLENESS』(Tuttle 1981 年)  
\*序段の出典も同書
- 6) 作成した英字新聞については本校HPをご覧ください。

<http://www.fz.ocha.ac.jp/fk/> > ホーム > 学校生活 > 探究活動の成果の各年度の探究Ⅱをご覧ください。

資料1（配布サイズは資料1～5までB5版）

二年教養基礎国語Ⅱ グループ学習プリント

2年 組 班 メンバー

---

1) 次の英文を現代語訳してみよう。

What a strange, demented feeling it gives me when I realize I have spent whole days before this inkstone, with nothing better to do, jotting down at random whatever nonsensical thoughts have entered my head.

資料 2

(参考 現代語訳)

じつと何かしていられないではいられない気持ちに惹かれて、終日硯に向かいながら、心に浮かんでくるとりとめもないことを、何とすることもなく書きつけてみると、自分ながら妙に感じられるほど「興がわいてきて」何だかものに憑かれたような気さえて筆を進める。

『改訂 徒然草』今泉忠義訳注 角川ソフィア文庫

(参考 台湾訳)

無聊之日，枯坐硯前，心中不由雜想紛呈，乃隨手寫來；

其間似有不近常理者，

視為怪談可也。

『徒然草 つれづれぐさ』吉田兼好著 文東譯 時報出版

2) 英文と、日本語、台湾の文を比べて、気が付いたことを話し合っ、まとめてみよう。

2年 組 番 氏名

---

資料 3

3) 次の古文を、台湾の文・注も参考にして、英訳してみよう。

ア 字寫得不好，還無所顧忌到處題字作書的人，勇氣可嘉；稱自己書法不好就請人代筆作書的人，反而做作得讓人討厭。

イ 改也無益的事，可以不改。

ウ 據說雕刻名手都用有點鈍的刻刀。妙觀<sup>340</sup>的刻刀就不太鋒利。

340

妙觀：奈良時代的名匠。因雕刻了大阪攝津國勝尾寺的觀音像和四天王像而聞名。

ア 手のわるき人の、憚らず文かきちらすはよし、みぐるしとて人に書かせるはうるさし。  
イ 改めて益なき事は、改めぬをよしとするなり。  
ウ よき細工は、少し鈍き刀を使うといふ。妙觀が刀はいたくたたず。

ア

イ

ウ

2年 組 番 氏名

資料 4

解答例) 『ESSAYS in IDLENESS』 translated by Donald Keene published by Tuttle 1981

ア A person with a bad handwriting should not be embarrassed to write his own letters. There is something irritating about people who, pleading their writing is ugly, ask other to write for them.

イ It is not to change something if changing it will not do any good.

ウ They say that a good carver uses a slightly dull knife. Myokan's knife cut very poorly.

4) 原文 (古文)、台湾の文、英文を比較し、どれくらい正しく理解できたかを5段階で評価し、さらに問題点を話し合ってみよう。

ア 評価 ( 5 4 3 2 1 ) ○を付ける

--

イ 評価 ( 5 4 3 2 1 ) ○を付ける

--

ウ 評価 ( 5 4 3 2 1 ) ○を付ける

--

資料 5

二年教養国語Ⅱ 授業評価用紙

今回の授業について、ふだんの授業も踏まえて、当てはまる番号を○で囲んでください。

5：大いに当てはまる 4：やや当てはまる 3：どちらともいえない

2：あまり当てはまらない 1：まったく当てはまらない

①言語の違いに興味があった	5	4	3	2	1
②言語の違いにより興味をわいた	5	4	3	2	1
③言語の違いを意識して作業できた	5	4	3	2	1
④ふだんの古文の授業に積極的に取り組んでいる	5	4	3	2	1
⑤いつもの授業より積極的に取り組んだ	5	4	3	2	1
⑥古文の現代語訳は得意である	5	4	3	2	1
⑦ただ現代語訳するより内容がよく理解できた	5	4	3	2	1
⑧自己評価は難しかった	5	4	3	2	1
⑨作業は協力して行うことができた	5	4	3	2	1
⑩『徒然草』を読みたいと思った	5	4	3	2	1
⑪『ESSAYS in IDLENESS』を読みたいと思った	5	4	3	2	1
⑫『つれづれ草』（台湾 Ver.）を読みたいと思った	5	4	3	2	1

○今回の授業の感想を自由に書いてください

2年 組 番 氏名

資料6

自己評価集計

2017 108人

	5	4	3	2	1	
1	19	48	26	13	2	3.64
2	24	59	18	6	1	3.92
3	14	46	39	7	2	3.58
4	13	53	37	5	0	3.69
5	24	40	35	7	2	3.71
6	2	8	35	50	13	2.41
7	14	45	35	12	2	3.53
8	29	38	26	15	0	3.75
9	57	26	21	4	0	4.26
10	10	25	52	19	2	3.20
11	18	27	27	25	11	3.15

2018 101人

	5	4	3	2	1	
1	13	57	24	7	0	3.75
2	30	52	16	3	0	4.08
3	39	46	16	0	0	4.23
4	21	44	31	4	1	3.79
5	28	44	25	2	2	3.93
6	1	18	32	42	8	2.62
7	29	41	20	8	3	3.84
8	19	48	24	8	2	3.73
9	54	30	10	7	0	4.30
10	8	40	39	9	5	3.37
11	14	37	31	13	6	3.40
12	3	14	36	32	16	2.56

\*各項目は資料5参照

\*1～11は2017年度、2018年度共通



資料 8

二年教養国語Ⅱ 授業評価用紙

今回の授業について、ふだんの授業も踏まえて、当てはまる番号を○で囲んでください。

5：大いに当てはまる 4：やや当てはまる 3：どちらともいえない  
2：あまり当てはまらない 1：まったく当てはまらない

①言語の違いに興味があった	5	④	3	2	1
②言語の違いにより <u>興味</u> がわいた	5	④	3	2	1
③言語の違いを意識して作業できた	5	④	3	2	1
④ふだんの古文の授業に <u>積極的</u> に取り組んでいる	5	④	3	2	1
⑤いつもの授業より <u>積極的</u> に取り組んだ	5	4	③	2	1
⑥古文の現代語訳は得意である	5	4	③	2	1
⑦ただ現代語訳するより内容がよく理解できた	5	④	3	2	1
⑧自己評価は難しかった	5	4	3	②	1
⑨作業は協力して行うことができた	5	④	3	2	1
⑩『徒然草』を読みたいと思った	5	4	③	2	1
⑪『ESSAYS in IDLENESS』を読みたいと思った	5	④	3	2	1
⑫『つれづれ草』(台湾 Ver.)を読みたいと思った	5	4	③	2	1

○今回の授業の感想を自由に書いてください

古文を英訳可能なことで、現代語訳をより深く理解し「よければ」  
「し」し、それぞれの言語のもつ意味の幅が「ちがうこと」  
ひ、「し」しを単語を見つけることに苦戦し「し」し、日本語と  
英語では語順が「ちがう」し「し」し、訳すときに訳す順番を考慮し「し」  
け「し」し「し」し「し」し「し」し「し」し

二年教養国語Ⅱ 授業評価用紙

今回の授業について、ふだんの授業も踏まえて、当てはまる番号を○で囲んでください。

5：大いに当てはまる 4：やや当てはまる 3：どちらともいえない

2：あまり当てはまらない 1：まったく当てはまらない

①言語の違いに興味があった	5	④	3	2	1
②言語の違いにより興味をわいた	⑤	4	3	2	1
③言語の違いを意識して作業できた	⑤	4	3	2	1
④ふだんの古文の授業に積極的に取り組んでいる	⑤	4	3	2	1
⑤いつもの授業より積極的に取り組んだ	⑤	4	3	2	1
⑥古文の現代語訳は得意である	5	4	③	2	1
⑦ただ現代語訳するより内容がよく理解できた	⑤	4	3	2	1
⑧自己評価は難しかった	5	4	3	②	1
⑨作業は協力して行うことができた	⑤	4	3	2	1
⑩『徒然草』を読みたいと思った	5	4	③	2	1
⑪『ESSAYS in IDLENESS』を読みたいと思った	⑤	4	3	2	1
⑫『つれづれ草』(台湾 Ver.)を読みたいと思った	⑤	4	3	2	1

○今回の授業の感想を自由に書いてください

訳すのは難しく、つい直訳しようと思ってしまうが  
自然に訳すのが大事だと気づいた。  
特に台湾の文が、表現のしかたが何となく心に残っ  
たので、と知りたいと思った。